

「神の国をくださる」

2015年08月29日

ルカによる福音書 12章 29節～34節。あなたがたも、何を食べようか、何を飲もうかと考えてはならない。また、思い悩むな。それはみな、世の異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの父は、これらのものがあなたがたに必要なことをご存じである。ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる。小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。自分の持ち物を売り払って施しなさい。擦り切れることのない財布を作り、尽きることのない富を天に積みなさい。そこは、盗人も近寄らず、虫も食い荒らさない。あなたがたの富のあるところに、あなたがたの心もあるのだ。」

主イエスは弟子たちに「あなたがたも、何を食べようか、何を飲もうかと考えてはならない。また、思い悩むな。それはみな、世の異邦人が切に求めているものだ」と言われた。貧しい宣教団にとって、食べ物、飲み物で贅沢な選択肢があったとは思えないが、ローマ帝国の日の出の勢いを誇る市民たちは美味しい食べ物、飲み物を漁っていただろう。異邦人があくせく求めているものに走らなくても、神はあなた方に必要なものはご存じである。「ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる」と言われた。「神の国」とは神が生きて働いて、生を肯定し、互いに受け入れ合って生きることを喜ぶ世界である。この神の国を求めよ、そうすれば必要なすべては与えられる。

「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。」主イエスの宣教団は小さな群れであった。周りには、圧倒的なローマ帝国、領主、そしてエルサレム神殿を中心とした権威ある宗教団体が君臨していた。これらの力の前で、宣教団は吹けば飛ぶような存在であった。しかし「小さな群れよ、恐れるな」と言われる。なぜなら、神はあなた方に神の国をくださるからだ。ルカ福音書 17章 20節 b～21節で「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ」と、神の国は見える形ではないが、既にあなた方の間に来ていると宣言している。

「神の国をくださる」「神の国はあなたがたの間にある」という主イエスの宣言と、私たちが生きている苦悩に満ちた世界はあまりにも落差があり、神の国は見えない。しかし、キリスト教信仰は主イエスの十字架と復活によって罪を赦された者として神に是認され、神の国に生かされていることを信じ抜く。だから、落差に悲嘆したり、逃避することなく、正義と公平を求めて闘いを挑む。その闘いは真剣で、しかも平安と勇気、そしてユーモアの中でなされる。それを「自分の持ち物を売り払って施しなさい。擦り切れることのない財布を作り、尽きることのない富を天に積みなさい。そこは、盗人も近寄らず、虫も食い荒らさない。あなたがたの富のあるところに、あなたがたの心もあるのだ」と言われる。

地上のものは皆、擦り切れ消え失せる。盗人からも盗まれず、虫からも食い荒らされぬ富がある。この富を天に積む。人は何を富とするかによって、心のあり方、生き方が決まってくる。主イエスは互いの命を愛おしむ神の国を富とせよと語りかけている。

些細なことで思い悩む日々を送っているが、目を天に向けてみる。十字架の死をもって愛してくださった主イエスがおられる。私たちは見捨てられることはない。だから、主イエスが現された神の国を望み、追いつけていきたいと励まされる。